

大森東地区管内人口		
人口	男	10,385人
	女	9,259人
	計	19,644人
世帯数 11,039世帯 (令和7年9月1日現在)		

おおもりがし 地域情報 いっつのわ

手をつなぐ5自治会

- 大森東自治会 (平林 敏夫 会長)
- 大森東四丁目自治会 (伊藤 音嗣 会長)
- 川端自治会 (江藤 豊 会長)
- 大森南自治会 (平林 茂 会長)
- 森ヶ崎自治会 (野口 多加志 会長)

発行：地域力推進大森東地区委員会 編集：地域情報紙「いっつのわ」編集委員会

【編集委員長】須山 芳明 (大森東四丁目自治会) 【副編集委員長】野口 弘子 (大森南自治会) / 江原 良子 (森ヶ崎自治会)

【編集委員】田中 文雄 (大森東自治会) / 野村 勝恵 (大森東自治会) / 福本 享子 (川端自治会) / 平林 典明 (川端自治会) / 魚住 みさ子 (大森南自治会) / 安藤 澄枝 (森ヶ崎自治会) / 伊藤 音嗣 (大森東四丁目自治会) 【事務局】前田 璃咲 (大森東特別出張所)

地域を空から守る！ 地元企業と消防署の最強防災タッグ誕生！

令和7年7月3日(木)大森消防署は地元企業の株式会社池上自動車教習所と株式会社IDS池上ドローンスクールと災害時における無人航空機(ドローン)を活用した支援活動に関する協定を締結しました。

大森消防署では、首都直下地震等における効果的、効率的な消防活動を展開するために、管内で発生する延焼火災等の被害状況を迅速に把握することが重要となっています。

そこで、令和4年9月に大田区と防災時協力協定を締結している池上自動車教習所、池上ドローンスクールの協力を得て、大森消防署からの要請に基づき、ドローンスクールが所有する無人飛行機(ドローン)を活用し、被災状況等の空撮映像をリアルタイムに情報収集の支援を受ける協定の締結に至ったものです。

締結式で株式会社池上自動車教習所の野村篤社長からは「地元企業として、地域貢献が出来て、非常にうれしい。これからも消防署と地元の安心安全のために手を携えていきたい。」と力強い言葉をいただきました。大森消防署は今後も、災害から地元「大森」を守り、効果的、効率的な消防活動を展開するべく、両者と更なる連携の強化を図っていきます。



(大森消防所警防課)

～大田区との協定～

- (1) 災害発生時における被災状況を小型無人航空機(ドローン)による調査
- (2) 災害発生時における小型無人航空機(ドローン)により撮影した情報の提供

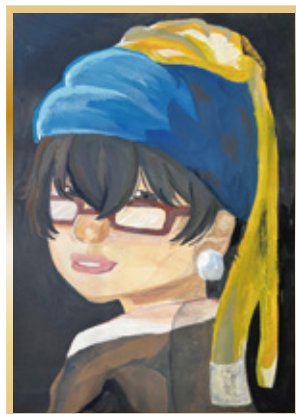
(令和4年9月5日付大田区役所プレスリリースより引用)



1年 大田 芹奈さん



2年 伊藤 らなさん



3年 渡部 結衣さん

大森東 こども作品館
大森第一中学校 作品

「大森東こども作品館」第9弾は、大森第一中学校の作品を掲載しています。児童のフレッシュな作品を皆様ご鑑賞ください。

『怖かったこと、大変だったこと』

大森南自治会 須山 一雄

大森びと

トリック・ストーリー Vol.9

忘れかけていた海苔業記憶も薄れ話す人もいなくなったこの頃。この機会を借りて思い出してみました。怖かった事、風です。昭和三十年二月十一日今日は、風模様だから東貫場へ海苔採りに行こうって、潮とり※の人と二人で機械船で行き、海苔採り最中に風が出て帰ろうと思った時は潮が引き干上がり、上潮待ちでエンデンをかけ錨を上げようとしたその時、錨の根元から綱が切れ、錨無しで走り続け飛行場沖等では三角波で船は進まず、エンデンが止まったら命が無いと思いながら、どうやらサジ滞※に入れたが船着場の旧呑川には無理と判断、新呑川に入り係留する事ができ帰宅したら家の方では遅いので心配してた。時の風速北風二十六、三メートルでした。

大変だった事、築建て築抜き力仕事で海上ですからね。築とは海苔網を縛る支柱の事。築建ては、九月中頃からで各自の場所が決まり築の準備ができ浅場は六尺位から深場では三十三尺位で浅場は胴長靴を履いて砂場の所ではポンプを使ったがほとんど船の上の仕事で二人では出来ない事ばかりで親戚友人知人と協同で行った。支柱は竹で根元にアゴを付け、節を抜き穴を開け水が入り重みを出す為築作り。築作りが終え、各自の場所へ建てる。

▲船上築建

▲築作り

築抜き、海苔の収穫が終り網の撤収も終了。五月には築抜き作業を行う。船の表甲板にウインチをとりつけ、竹の根元に近い所に鎌をかき巻き上げるので鎌をかける人とウインチを巻く人が呼吸を合せて一気に抜く。浅い所は築だが深い所は三十尺もあり竹にセッコロ貝※やブヨブヨしたアカニシの卵が入っているのが付いて重くて落しながら抜き上げる。船を操る人と四、五人はいないとね。船に満載して荷上場へ帰り、陸に揚げるのが重くて大変でした。長い竹ですと二人で持つて揚げ六月には不純物を落して整理し、積みタンで屋根囲いをして使用しに保年度次

※1「潮とり」…海苔をとる職人

※2「サジ滞」…新呑川の下降

※3「地っ子」…大森の海のことを「家の下」といった。そして、大森種付けをして採れた海苔を「地っ子」といった。そこで採れる海苔で特に有名なのが浅草海苔といわれる。

※4「セッコロ貝」…フジツボなどの貝類

第12回 いっつのわ ふれあい祭り開催!

10月19日(日) 10時～15時 小雨決行

(場所…森ヶ崎緑華園芝生広場他)

昨年延べ約17,000人が来場した大森東地区のお祭りが今年も開催★今年はキッチンカーが5台に増加！地域のみなさまのご参加を心からお待ちしております!!

祭りHP

(写真: 令和6年の様子)

地域の行事

十月十九日(日)
いっつのわふれあい祭り
森ヶ崎緑華園芝生広場他

十一月一日(土)、二日(日)
OTAふれあいフェスタ
平和島公園・平和の森公園・ふるさと公園

十一月八日(土)
★いっつのわ太陽祭
大田幸陽会会館

編集後記

今年も空からは灼熱の太陽、電話口からは詐欺師のラブコール不快な夏に一服の清涼剤

甲子園、県立岐阜商業が優勝候補横浜高校に金星
左手指欠損のハンディを物ともしない外野手横山温大君の守備・打撃！
久しぶりに素晴らしい感動をいただきました。

編集委員一同



完全復活!おもちつき

中富小学校 令和6年度PTA会長 重政 真波

令和6年12月21日土曜日、PTA主催の
おもちつきが行われました。

令和5年度は数年ぶりに開催できたのですが、インフルエンザによる学級閉鎖明けで、こどもたちのおもちつきは中止して大人のおもちつきを見学、おもちはその場で食べず持ち帰りのみという少しかたちを変えての開催でした。そして迎えた令和6年度のおもちつきは、5年ぶりの完全復活となりました。

準備は5日前から始めます。倉庫から二つの臼を水道の近くまで運び水を張ります。その後は朝夕1日2回、PTA役員が交代でおもちつき当日まで水張り当番をするのです。この二つの臼、ひとつは十年以上は前からあると思われるもの、もうひとつは3年前の開校70周年のときに歴代PTA会長会から贈られたものです。

後者の臼に張った水はほぼ減りませんが、前者の臼にはヒビが入っていて、水をいっぱいに張ってもダダーと漏れてしまい、ちょっとほかのことをしているだけで水が半分くらいに減ってしまうのです。ところが数日経つにつれ臼が締ま

り水も漏れなくなってきた、使える状態になります。

おもちの種類はきなこと、磯辺です。磯辺に使う海苔は、何十年も元PTA会長でもある地域の海苔屋さんが、例年寄付してくださっています。

当日はおもちを運ぶ、お湯を運ぶ、かえし、おもちを丸める、おもちをカップやパックに詰める、おもちを配る、などなどPTA役員以外にもおやじの会「レッツ」のみなさま、保護者のみなさまにたくさんご協力をいただき、運営することができました。

5年ぶりのおもちつきにはこどもたちの長蛇の列、飲食スペースは不足してしまい申し訳なかったのですが、校庭の隅に並んで座って食べるこどもたちも楽しそう。

こどもたちの笑顔と美味しいおもちで、お手伝いを
いただいたみなさまも癒されていたら幸いです。私は長い
間PTAに携わりましたが、これで最後となりましたので、ま
た違った思いもありました。今後もずっと、中富小PTAがこ
どもたちのためにあり続けることを願っています。



(大田文化の森運営協議会企画事業より)



いざという時の命綱!!

防災ボトルをつくろう



- ①ボトル(500cc)
②エマージェンシーシート(アルミシート)
③マスク ④圧縮タオル ⑤ミニライト
⑥ホイッスル ⑦油性ペン ⑧メモ用紙
⑨カッター ⑩バンドエイド ⑪滑り止め付きグローブ
⑫ようかん(甘いものがあるといい)
⑬ロープ(編んでボトルの持手になっています)

この他、お薬手帳のコピーや日々の処方箋、小銭なども考えられそうです。

参考にさせていただいて、御自分用のものをつくってみて
はいかがでしょうか。100円ショップの防災用品も結構使
えます。

(福本 享子)

わかばの会について

わかばの会 九代代表 鈴木 渉

前まで恒例行事として行われていました。(防災お泊り会は今年再開します。)また、子供の山車のお手伝いをするようになり、赤シャツのわかば会の存在が地域にも広く認識されるようになります。

今回お話をお伺いして、他の会とのお話でも感じたことですが、時と場所と言葉は変われども、親父の会に携わっている方は皆同じ精神なのだと感じました。これからも精神を途切れないようにしつつ、現代に合った参加の仕方、取り組みを模索していきたいと思います。地域との関わり合いのきっかけにもなるわかばの会、ぜひご一緒に活動してみませんか。スポットでの参加也大歓迎です。



青少年対策大森東地区委員会の活動に参加して

大森東4丁目自治会 松藤 俊久

少年野球大会の運営、大森地域のリーダー講習会の運営と引率と見守りです。約7ヶ月間のリーダー講習に参加するメンバーが講習参加を重ねる毎に明るく楽しそうに成長していく姿が素晴らしく、感動しています。

特に春と秋のバスハイクは関東を主にイチゴ食べ放題、プラネタリウム見学、羽田空港見学等が人気でした。引率、見守りで晴天無事故を祈り活動しております。小学生や中学生の子供たちと接して元気をもらっている事が多いです。

戦後80年となり平和の尊さを特に感じるこの頃ですが、子供たちの安全地帯の地域を築く為に大人が真剣に活動していくことが、今こそ求められていると感じこれからも活動に励んでまいります決意です。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



わかばの会に入会したきっかけは、子供の小学校の最初のイベントでお手伝いをしたことでした。その後二年間、多くのこどもたちと触れ合う中で、あっという間に時間が過ぎ、三年目にはわかばの会の成り立ちや、根本的に何を目的にすべきなのかを考えていたところ、この原稿の依頼がありました。詳しいお話は、発足者の大森第四小学校二十七代PTA会長であった松原康晴氏にお伺いすることができましたので、ご報告させていただきます。

会長に就きイベントを開催する側となり、PTA活動を支える縁の下の力持ち的なグループが必要であること、トラブルに対応する男手が必要であることを痛感されたそうです。大森ブロックでは親父の会の存在がまだ無い時代でしたが、会長自らお父様方に声をかけ四名が集合し、平成十八年にわかばの会が誕生します。わかばの会という名称と赤シャツはこの四名で決定し、現在に至っています。PTA活動だけではなく、父親目線のイベントも提案しようと、「流しそうめん」「防災お泊り会」を発足から数年後独自に開催できるようになるまでになります。このイベントはコロナ

早いもので、青少年対策大森東地区委員会(以下青少対とする)に入り10年目となりました。10月には令和7年度青少対永年功労者の表彰を受けることになり自治会や関係者の方々に感謝いたします。

私は長崎県出身で、高校卒業後上京し、20代から30代にかけて主に品川区で学業と仕事に励んでまいりました。その後大田区に転居しおよそ40年になります。

青少対に入るきっかけは、12年前大森東4丁目自治会の市民消火隊の入隊と共に自治会活動に参加し、推薦して頂いたことです。また、息子が中富小学校でお世話になりましたが、その時代はバブル時代で仕事が忙しく働いておりましたので、学校への参加も少なく子供にも寂しい思いをさせていた事への反省を込め子供たちのために微力ですが役にたちたいと思ったからです。

ここで、青少対の活動を紹介します。基本としましては、青少年の健全育成が目的となります。イベントは大田区子どもガーデンパーティの主催と、OTAふれあいフェスタ・いつつのわふれあい祭りの出店です。さらに大森地区の